

まつやまNPO サポセン だより

2012

春



P2~4
平成24年度 まつやまNPOサポートセンター事業内容

P5
レポート 伝えるコツ@えひめを開催しました！

P6~7
レポート NPO交流会を開催しました！

P8~9
コラム ファンドレイジングの第一歩 「ありがとう」を形にしよう

P10~11
コラム 会計のワンポイントアドバイス

【発行】
まつやまNPO
サポートセンター

平成24年度のまつやまNPOサポートセンターでは、以下の事業を行います。

特に力を入れる考え方は「連携の促進」です。お互いに活動を助け合い、支え合う関係づくりや場づくりを進めることで、まつやまのNPOをもっと元気にするきっかけを作りたいと考えています。

❖ 1 センターで実施する事業の概要

平成24年度に実施する事業の概要は、下記のとおりです。

●交流促進のために

☆NPO交流会～年2回(9月と2月)にNPOと市民が交流する場を設けます。9月は「リーダーズサミット(交流が中心)」、2月は「ドネーションパーティー(団体PRが中心)」を予定しています。

●情報発信のために

☆市民活動配送便～センターから松山市NPO登録団体のチラシを公民館、支所、市有施設などに、まとめて発送します。NPOの皆さんが1件1件チラシを配って回る手間を大幅に削減するしくみです。なお、24年度から随時利用できるようになりました。

☆ニュースキャスト～県内メディア(新聞・テレビなど15社以上)に対して、NPOのニュースをお届けしています。プレスリリースを出したい方は、チラシなどの資料をお持ち下さい。一緒にどうやってメディアを活用するか考えましょう。

☆センターメディアの配信～広報誌「サポセンだより」を年間6000部発行するほか、ホームページの運用、メルマガの配信などを行います。また、24年度からFacebookを導入する予定です。

●運営力向上のために

☆よろず相談～暮らしに関する様々なお悩みのうち、NPOでも解決できそうなことがあればご紹介します。またNPOの各種運営に関する総合窓口としてバックアップいたします。

☆セミナー開催～NPOのはじめかた、助成金の取り方、会計システムの作り方などNPOの設立と運営に関する講座を開催します。

●連携促進のために

☆この事業については次のページで詳しくご説明します！

●公正な運営のために

☆満足度調査～ご利用者の皆さまにアンケートをお願いし、サポートセンターがもっと皆さんの役にたてるように改善してまいります。

☆センター運営協議会～NPOや市民活動にかかわる皆様から、センターの事業内容等に関するご意見を伺う場を設けます。

❖ 2 特に力を入れて取り組む事業

24年度のサポートセンターは、連携促進のための事業に力を入れてまいります。NPO同士、NPOと企業、行政、地域との連携(支え合い、助け合い)が進むことで、小さな団体でも大きな力を生み出すことができるのです。

そのためには、以下の3つの事業に取り組めます。

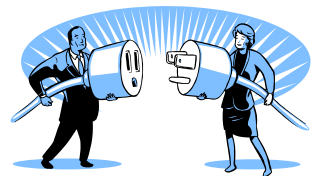
● 個別訪問を通じたヒアリング

NPOひとつひとつの発展を応援するのが、サポートセンターの使命です。そこで昨年同様、皆様の元へお伺いいたします。やりたいこと、欲しいもの、困っていること、まずは私たちに聞かせください。事務所がご自宅の場合などは、活動現場にもお伺いいたします。

● ひとものプラットフォーム

物品や人などの活動資源をNPO同士、あるいはそれ以外との間で循環させるしくみです。NPOが欲しい物品、提供できる物品の情報を共有し合い、助け合うことを目的としています。23年9月に運用をスタートして、半年で5件程度のマッチング(おもちゃや消耗品、家具など)がありました。

このしくみを活発に動かすことができれば、NPOのネットワークはより強く、太くなっていくと考えています。ですからこの事業を、24年度は最も力をいれて進める予定です。



● 地域包括ケアネットワーク

市民生活のサポートを目的とした、NPOのゆるやかなネットワークづくりを行います。センターがその中心となって、市民からの暮らしに関する諸問題を解決する窓口を設けます。また、NPO同士でお互いの活動を助け合い、支え合うネットワークも構築します。小さな組織が集まって連携することで、大きな成果を生み出すことを目指します。

24年度のサポートセンターは「つながり作り」をテーマとしています。

皆さんの思いとエネルギーが集まる場になれるよう努力いたします！

❖ 2 主な事業スケジュール

月	主 な 予 定	
	講 座	イベント・事業
4月	助成金講座 NPO設立講座	決算、年度末手続き相談対応 改正NPO法相談対応
5月	資金調達実践道場（～8月）	決算、年度末手続き相談対応 改正NPO法相談対応
6月	会計講座	サボセンだより夏号
7月		
8月	助成金講座 NPO設立講座	
9月		リーダーズサミット サボセンだより秋号
10月	資金調達実践道場（～1月）	みんなの生活展
11月	NPOマネジメント講座	
12月	会計相談会 NPO設立講座	サボセンだより冬号
1月		コムズフェスティバル
2月		ドネーションパーティー
3月	決算相談会	サボセンだより春号 NPO法人決算事務一覧作成

❖ 3 打合せスペース・ミニロッカーをお貸しします。

現在、松山市NPO登録を行っている団体へ、会議室1-2を無料で使用できるサービスを提供しております。それ以外の団体にもぜひセンターにお越しいただきたいと考えました。そこで、打合せ用・作業用のスペースをお貸しいたします（ただし市民活動目的のものに限る）。

お貸しできる時間帯は、センター開館時間内です。概ね1時間程度のご利用をお願いいたします。予約は不要ですが、ご利用者が先におられる場合はお貸しできませんので、2階の談話コーナーをご利用下さい。

また、松山市男女共同参画推進センターのご厚意により、談話コーナーのロッカー（幅10cm×奥行26cm×高さ30cm）を10カ所分お借りしております。ちょっとした物入れに活用できますので、ご希望の方はお問い合わせください。

❖ 2/18 「伝えるコツ」@えひめ を開催しました！

(株)電通、日本NPOセンターの協力により、広報講座「伝えるコツ」を開催しました。30名以上の方よりお申し込みを頂き、まる1日かけてプロから広報のやり方を学びました。そのポイントは、下記のとおりです。ご参加頂いた皆さん、お疲れ様でした！

●大事なことは、一言で伝えられる



講師の池田佳代さん(NPO法人OruPlanet-TV理事)によると、「人は一度にたくさんの情報を記憶できないため、今一番伝えたいことを一つに絞る」ことが広報のカギだそうです。

そのためには、①私たちは何者なのか、②目的と支援対象はどれか、③具体的にどんなことをしているのかという点を明確にし、分かりやすい言葉で伝えるなどのやり方が大切なのです。

私たちは、一度にあれもこれも伝えようとして、結局何だかわからないメッセージを発してしまいがちです。しかし広報のプロは、メッセージを徹底的に絞り込むことで、人々に伝えたいことをきちんと伝えるようにしています。

●わかりやすさとおもてなし感

また、イベント告知をする際には、わかりやすさ(簡潔な表現、専門用語の説明をする)、おもてなし感(楽しい、お得だ、歓迎しますというアピール)を重視するそうです。そしてそれは誰に対してメッセージを届けたいのかを決めておかないと、焦点がぼやけてしまうそうです。ここでも、絞り込むことが大切だということでした。

●メディアの視点を意識する

そして、メディアの活用がNPOの広報を成功させるカギでもあります。メディアで取り上げてもらうためにはコツがあり、①タイミングが適切か、②大きなテーマとして取り上げやすいか、③新しさやめずらしさは何か、④関連データや資料を用意しているか、⑤メディア掲載までの仕組みを知っているか、⑥日頃のお付き合いを作っているか、が重要であるということでした。



❖2/26 NPO交流会を開催しました！

2/26 愛媛CATVにご協力いただき、同社オープンスタジオにて、NPO交流会を開催しました。50名募集のところ、32団体85名の方にご参加頂きました。またこの日は松山市市民活動推進事業表彰式も行われ、本市における市民活動の発展や市民活動推進基金に協力した団体を表彰する式典も行われました。

●松山市市民活動推進事業表彰

市民活動推進事業として今回受賞された団体の皆さんは、以下のとおりです。この他にも、市事業への協力をしたNPO2団体、市民活動推進基金への多大な協力があったとして26団体と1名に対し感謝状の贈呈が行われました。



(1)ごご島里山作りグループ

興居島で花いっぱい運動や子どもたちが農業体験などをする機会を設けています。

(2)特定非営利活動法人 同和問題を考える市民の会

長年にわたり、市民の立場から様々な人権問題の啓発と改善に取り組んでいます。

(3)Eince子供応援隊

保免地区で子どもの遊びと学びの2つを両立する居場所づくりに取り組んでいます。

(4)コスモスの会

ギャンブル依存症の家族会として活動してこられ、家族のケアに取り組んでいます。

●初の試み その1！ドネーションパーティーを開催

表彰式の後、NPO交流会を行いました。今回はドネーションパーティー形式を採用しました。それは、団体の皆さんがプレゼンテーションを行い、参加者が共感した団体に「スマイルチケット」を投票、その得票数に応じた寄付金を参加費から配分するというやり方です。



会場にはNPOだけでなく、市民の方や表彰式に出席された企業の方も集まり、広いオープンスタジオが狭く感じるほどの熱気に包まれました。

また、会場ではNPOで販売しているお菓子も試食コーナーとして振る舞われました。NPO法人どんまいさんの「どんまいケーキ」、NPO法人えひめグローバルネットワークさんの「フェアトレードコーヒー」、衣サイクル研究会さんのジェラート「山頭火」で、参加者はそれらのおやつに舌鼓を打っていました。



当初より大幅に参加者が増えたため、別室では談話コーナーも設けられ、万が一の救護班としてNPO法人こころ塾さんのスタッフの方に、看護師として待機して頂きました(幸いにも出番はありませんでした)。

●初の試み その2！インターネットでライブ映像を配信

さらに、今回のNPO交流会では、NPO法人アジア・フィルム・ネットワークさんにご紹介いただき、映像制作会社ヴィキューブさんのご協力のもと、インターネットでライブ映像を配信する試みを行いました。3月現在、下記のアドレスからその録画情報を見ることができます(<http://www.ustream.tv>から、matsuyama_npoで検索)。



データはサポートセンターにも保存していますので、必要な方はお申し付けください。

●一番共感を集めたのは、レインボープライド愛媛さんでした

今回のドネーションパーティーでもっとも多くスマイルチケットを獲得したのは、性的少数者の人権啓発を行う「レインボープライド愛媛」さんでした。合計で2400点のチケットが投票され、見事第1位に輝きました。

その他の上位5位までの団体は、②特定非営利活動法人えひめ子どもチャレンジ支援機構、③特定非営利活動法人ぶちすてつぷ、④特定非営利活動法人国際地雷処理・地域復興支援の会、⑤えひめセラピードッグの会Bonds of life さんでした。

今回の成功は皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



コラム ファンドレイジングの第1歩 「ありがとう」を形にしよう

「ファンドレイジング」という言葉を、皆さんは聞いたことがあると思います。日本語に訳すと「資金調達」。具体的には、どのようにして寄付金や会費などを獲得していくかを、統合的に考える手法です。

そのファンドレイジングの重要なルールとして、「ありがとうを形にする」ことがあります。今回はそれをご紹介します。皆様の寄付開発にご活用ください。

❖ 1 きちんとお礼を言えていますか？

皆さんの団体では、寄付、会費、ボランティアなどの無償労働に対して、どのような感謝をしているのでしょうか？その場でお礼の言葉を述べたり、事業が終わった後に報告書をお届けしている人もおられるでしょう。

しかし中には、寄付をもらうまでは一所懸命にはたらきかけても、いざもらった後はつれない態度を取っている人が、ごくわずかですがいると聞いています。これは非常に残念なことです。感謝を形に表すことは、ファンドレイジングの重要なルールです。ではなぜ、お礼を形に表す必要があるのでしょうか？



●「ありがとう」は相手のためにするのではない！？

お礼を形に表すことは、けして支援者のためではありません。むしろ、自分たちにとってメリットがあるからすべきことなのです。なぜなら、お礼を形にすることで、「もう一度その方から支援を得るためのきっかけ」を作ることができるためです。

丁寧な、気持ちのこもったお礼をされると、人はもう一度その人のために何かしたいな、と思うようになります。そうなれば、次のお願いも受け入れてもらえやすくなるのではないのでしょうか。ですから、決してお礼は相手のためにするのではないと言えるのです。

●「ありがとう」で自分を追い込む！？

また、お礼をすることは、自分たちのプロ意識を高めることにもつながります。支援を受けて何か事業を行う際、「自分たちは支援者からこれだけの協力と期待を受けてやっているんだ」という気持ちを持つためには、具体的な行動としてお礼を言うことがきっかけになります。この決意表明は精神的なプレッシャーや覚悟になります。それはしっかりやろう、成功させようという強い気持ちを持つために有効なのです。

ですから、お礼を言うことであなたのプロ意識を高めることができるのです。

❖ 2 具体的にどうすればいいの？

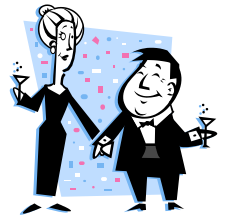
「ありがとう」を形にするとはいっても、具体的にはどうすればよいのでしょうか。別に高価な贈り物をしたり、式典を開いて表彰する必要はありません。「ちょっとした気配り」と「ささやかな特別扱い」をするだけで、充分にお礼を形にすることができるのです。

●「ちょっとした気配り」とは？

これは、例えば支援者の名前をホームページやパンフレットに掲載することや、お礼状を出すことです。また、支援者と会った時にお礼の言葉を述べることも欠かせません。気配りは、コツコツと継続的に行うことで、相手の「してよかった」感を高めることができます。

●「ささやかな特別扱い」とは？

これは、イベントの招待状を出すことや、懇親会などの場にお誘いするといった、普通の人よりもほんのちょっと支援者を優遇することで表します。代表者が訪問したり電話したりしてお礼を述べたり、感謝状を出すことでも特別扱いを演出することができます。



❖ 3 今すぐできることは？

では、今すぐあなたができることは何でしょうか？それは、次の2点に取りかかることです。

●支援者リストの作成

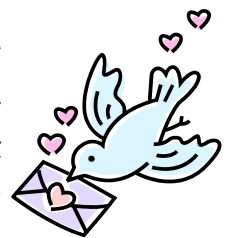
まず、会員、寄付者、物品などの提供者、ボランティアスタッフのリストを作成します。

お名前、連絡先、いつ何をしてもらったかを、スタッフ全員で思い出しましょう。

このリストをもとに、お礼を形にするアクションを行っていきます。

●お礼状を送る

そして取り急ぎできることとして、お礼状を出してみましょう。別に便せんに長文の手紙を書く必要はなく、まずはハガキだけでも充分ですから、お礼の言葉を書いて支援者にお届けします。かつて支援をしてくれた方で、最近連絡を取らなくなってしまった方にもお礼状を出してみましょう。意外と、もう一度支援者になってくれたりすることだってあります。



「ありがとう」を形にすることは、ファンドレイジングの第一歩です。

みなさんも、まずはここから始めてみましょう！

❖ 1 領収書の扱いにルールを作ろう

今年の決算で、領収書に苦しめられませんでしたか？

単なる計算ミスや集計ミスならまだしも、それ以外で不明金なお金が発生したり、帳簿上と実際の現金が相違する場合は、会計システムに問題があるかもしれません。

せっかくの新年度が始まるという節目です。このタイミングを活用して、団体メンバー内で「領収書ルール」を再確認してみてもいいでしょうか。

- ☐ 会計担当の以外の人が現金を預かった場合、どのようにすればよいか。
- ☐ 立替分の領収書は、誰にいつ提出するのか。またその確認はどのように行うか。
- ☐ また、提出期限の遅れた領収書は、どのように扱うのか。
- ☐ 立て替えた料金は、いつ精算されるのか。
- ☐ 領収書が発行できなかった場合は、どのように処理を行うこととするのか。
- ☐ この「領収書ルール」で、決算を行ったときに困ったことが解消されるか。

この「領収書ルール」は、明文化しておくことが、とても有効です。新しく入ってきたメンバーにもすぐに共有することが出来ます。少しの努力で、来年度以降の決算作業が楽になります。ぜひご検討下さい。

◆サポセンからのご提案◆

☆領収書の発生

- ・領収書の提出期日や、提出のための記載項目（宛名や裏書きメモ等）を決める。
- ・「一時預りのお金（源泉徴収等）」の処理には、別途、預り金額で伝票を作成する。

☆領収書の集計

- ・集計は「誰でもできる」「いつみても分かる」状態を作る
- ・処理日を固定する

☆処理に困ったら・・・

- ・団体内でどのように処理するか決めておく。
- ・一人で抱え込まずに、相談する先を決めておく。

❖ 2 決算書をどう活用すればいい？

会計についてのコラム第4弾です。

今号は、「作成された決算書をどのように活用するか」についてお話しします。

決算書には、主に2つの機能があります。

□ 外部に向けた報告書類としての機能

- ・総会において説明する会計書類として
- ・行政(県や市町村)への提出書類として
- ・税金の減免等の申請書類として
- ・助成金報告や助成金申請の書類として



やはり、外部の人が多く見る決算書、見た目もきれいに作っておきたいところですね。

会計科目があっているか、この表示は大丈夫か？と不安に思われる方は、愛媛県ボランティアネット(<http://nv.pref.ehime.jp/servlet/Kokai>)内にある他団体の情報や、NPO法人会計基準を参考にされるといいかもしれません。

□ 内部で使う分析ツールとしての機能

- ・収入は昨年や例年と比べてどうだったか？
 - 会費収入、事業収入、寄付金収入、それぞれにいえることがあると思います。
- ・その増加や減少の要因はどこにあったのか？
 - イベントの参加者をうまく募ることが出来た、イベントの開催頻度が低かった等
- ・必要な物品を必要な額で、購入することが出来たのか。
 - 他で安く購入することはできなかったか？
 - 無駄な支出はなかっただろうか？
- ・当初の予算と比較して、今年度の決算は何が達成できた(できなかった)か？
 - 「なぜ達成できた(できなかった)のか」を考えることで、団体の更なる発展が見えてきます。

決算書は、団体の1年間の成果を数値として現すものです。そのため、「決算書」という、客観的な数値実績を基にして、活動をさらによりよくしていくための話し合いを、メンバー内で行ってみたいかがでしょうか？



● 講座、イベント情報

【1日でわかるNPO設立講座】

NPOのはじめかたから法人設立まで、トータルでご説明します。
午前の部は任意団体の作り方、NPOの基礎、事業の進め方を、
午後の部は法人設立に関する実務講座を行います。

午前、午後いずれかのみでの参加でも構いません。

日 時 5月26日(土)「NPOのはじめかた」10:00~12:00
「NPO法人設立講座」13:30~15:30

会 場 コムズ創作室(松山市三番町6丁目4-20)

講 師 愛媛県県民活動推進課職員+サポートセンタースタッフ

定 員 各部25名ずつ(先着順)

参加費 無料

● センターからのお知らせ

● 4月からNPO法が改正されます！

平成24年4月から、改正NPO法が施行されます。活動分野が3つ追加されるなど、多くのNPO法人がその影響を受けます。特に収支計算書から活動計算書に変更が行われるなど、ほとんどの法人で定款変更・登記の必要が出てまいりますので、総会時には必ず議題にしてください！

● NPO登録団体は、事業報告をお忘れなく！

松山市NPO登録を受けている団体は、決算後に事業報告書と決算書を松山市に提出する義務があります。お忘れになられていると、市民活動配送便などの各種サービスが利用できません。必ず事業報告をご提出ください！

お問い合わせは まつやまNPOサポートセンターまで

☎ 790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ内

Tel: 089-943-5790

Fax: 089-943-5796

E-mail: pico@npo.coms.or.jp

URL: <http://www.npo.coms.or.jp>

まつやまNPO

検索